



日研生 E-だより 第6号

日本語・日本文化学類
2011年11月21日

修了生のみなさん、お元気でしょうか。『日研生 E-だより』第 6 号をお届けします。この 9 月 14 日に 2010 年度の日研生は無事に修了式を終えました。そして今年度は 9 月に新しい日研生 10 名を迎えました。

出身国は次のとおりです。

出身国名	人数
中国	1 名
ベトナム	3 名
ベラルーシ	1 名
スロベニア	1 名
ブラジル	1 名
エジプト	1 名
トルコ	1 名
ウズベキスタン	1 名
計	10 名



平成 22 年度日研生修了式

2010 年度担任の谷口先生と副担任の一二三先生からのメッセージです。

谷口先生

皆さん、お元気ですか。2010(平成 22)年度担任の谷口孝介です。

早いもので 2010 年度生の皆さんが修了して 2 ヶ月ほど立ちました。つくばはすっかり秋色が深まり、そろそろ冬支度の季節になってきました。いま日本は 1 年でもっとも美しい時期で、おいしい食べ物も多いころです。皆さんは 1 年前のことをおぼえていますか。自国を離れて日本に来たばかりのころで、緊張していてあまり心の余裕がなかったかもしれませんが、錦秋(きんしゅう)、秋味(あきあじ)の魅力を味わったでしょうか。

2 ヶ月も立つとすっかりそれぞれの国のペースにもどっていることと思いますが、日本に滞在していたときに感じた生活のペースと、自国でのペースとの違いは感じますか。そのような違いを実感することがもしてきたならば、今回の日研生としての短期留学は皆さんにとってかけがえのないものとなったと思われます。自国にいても異文化を学ぶことはできるでしょうが、やはり生活のペースの実感はある程度実際の社会生活を送らなければ、肌で感じられないものです。

日本の湿気、空気、温度、におい、音、そのような毎日の生活の細部を体感できて、はじめて真の異文化理解への道が開けるように思います。

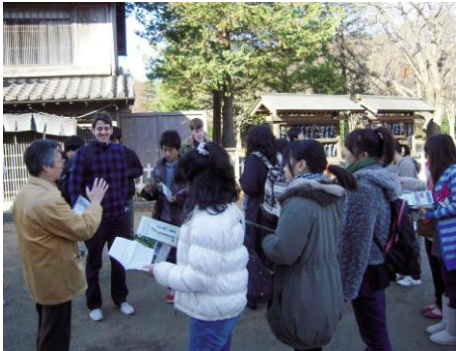
わたしたちにとっては皆さんがまさに異文化そのもので、皆さんの持った疑問や感想は、ふだん思ったこともなかったことが多く、ほんとうに勉強になります。こちらは教える立場ではあるのですが、皆さんから多くのことがらを教わりました。今後も皆さんの後輩たちに、今回学んだことを生かしてゆきたいと思っています。



世界は広いけれど、意外と狭いものでもあります。また何かの機会にお会いできることを思いつつ、皆様のご健康と活躍をお祈りしています。

一二三先生

日研生の皆さん、お元気ですか。1年間の日本での留学生活も無事に終え、それぞれの大学に戻って、今頃は忙しく過ごされていると思います。私は副担任でしたが、あまり皆さんとお話したりする機会はありませんでしたね。でも、皆さんが修了論文作成のために熱心に研究に取り組み、一方で日本でのさまざまな異文化体験をされている様子を嬉しく拝見しておりました。一番嬉しかったのは、日研生の皆さんがとても仲良く、お互いに協力し合い、助け合っ



ていることでした。筑波大学で、日本人学生だけでなく、さまざまな国の人と出会ったことが、これからの人生に役立ってくれることを願っています。また、3月には日本に大地震と津波、原発事故があり、本当にショックを受けられたと思います。でも、それにも負けず、最後まで日本での留学生生活を貫徹してくれたことも、深く心に残っています。皆さんの強い意志と勇気に、感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。またいつか、日本に、そして筑波にいらしてくれる日を楽しみにしています。これからの皆さんの活躍を心から祈っています。

平成 22 年度日研生に聞きました

今年 9 月に修了した日研生 10 名に次の質問をしたところ、7 名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. 日本で一年間日研生として過ごした感想、心に残る思い出などについて教えてください。
2. 帰国後の現在の様子をお知らせください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

■ ティア ジュウィタ ファジャルワティ さん

1. 日本に来て、いろいろな人に会えたことは本当にありがたいと思います。日本の社会生活からいろいろなことが勉強できました。他人への思いやりや、「ありがとう」という言葉の意味を改めて考えさせられました。これから先、日本でできた経験と共に日本語の勉強を続けて、周りの人に役に立てるようになりたいと思います。
2. 今週の月曜日から、大学の生活に戻りました。後輩のみなさんに会って、いろいろなことを聞かれました。実は、どう答えればいいのかわかりませんが、せめて、後輩のみなさんの心に「日本に行きたい」という意志が強がるようにしたいと思います。

■ フィリタリナ アンナ さん

1. 実はいろいろありました。特に楽しかったのは新しい人に出会ったり、友達になったり、一緒に行動したりすることでした。日本はずばらしい国で、いつかまた日本に行きたいです。日本に来てばかりの時、日本のサービスや人のやさしさと丁寧の行動に驚きました。大学の人たちも、大学の授業はよかったです。心に残ったことはやはり富士山に登ったことです。奈良、京都への旅行もそうです。友達と一緒にたくさんの飲み会の思い出です。本当に楽しい、いい留学でした。ありがとうございました！



2. 今はまたモスクワ市立教育大学の授業を通っています。今のモスクワも寒いので、少し風邪をひきました。もうすぐ直ると思います。これから後2年間がんばって日本語を勉強するつもりです。卒業したら、つくばに戻りたいです。

■ チン ハイユ さん

1. 日本での一年間すごく充実でした。色々な国の人と触れ合う機会がたくさんあって、お互いの文化に驚いたり驚かせたりしました。知らなかった異文化を発見して、今まで普通だと思っていた自分の国の習慣が見つかれて、毎日も発見の中で楽しく過ごせました。日本で留学する事で世界中の人と友達ができるのは想像しなかったですから、より嬉しいです。自分は部活も入っていて、日本文化をもっとわかることができました。普通の日本人の大学生と交流できたり、たまに試合に

出たりして、日本慣習を実感していい経験がたくさんありました。一年間は本当にあっという間でした。機会があればまた日本、つくばに行きたいです。

2. 帰国した後はかなり忙しいですが、今でも日本の友達と日研生と連絡取っていて、すごく嬉しいです。一年の絆だけではなく、帰国した後も連絡が続いてる事に感激です。日本で留学したことが大学も仕事もすごく役に立ちました。今は一年前と比べて日本語が少し上達して、もっと自然に日本人と話す事ができました。日本で勉強した事はきっと将来の仕事に有用だと思います。



■ マルセロ マシエル メイレス さん

1. とてもよかったですと思います。日本語のレベルも高まったし、日本語文化や習慣を実感することができました。一番記憶に残っているのは、やはり、日本の四季です。なぜかとうい、ブラジルでは四季の風景はあまり変わりませんので、時間が経っているのをあまり感じられません。でも、日本の方が四季がしっかりしていて、一年間はあっという間という感じです。また日本に行きたいと思います。

2. まだ卒業していませんので、今公文で先生の手伝いをしたり、日本語モデル校で初級と中級の日本語を教えたりしています。漢字能力検定2級を挑戦しました。今から日本語能力試験のN1の準備をしています。

■ ロットマン ミーカエル さん

1. 残った印象としては例えば立派な哲史の学院室のことです。学院生たちはいつもすばらしい学問的な雰囲気の中で自分の研究をまじめになさっていたけれど、時々皆はお茶を作ったり、親しくしゃべったりしたという良い思い出があります。修了論文のチューターの蓮沼さんと指導先生保呂さんとの会話も楽しかったです。その内容は西田幾多郎と鈴木大拙に限らず、峠についてとか、キリスト教などについてでした。しかしながら来日したときは目的感と意志がなくなり、その賑わっている無さの感覚も忘れたくないのです。

2. 今年度大学を卒業する予定ですので、今は結構忙しいです。最後の欠けている単位を集め、卒業論文を書かなければなりません。論文の内容は修了論文と違い、具体的に『善の研究』の翻訳について研究したいです。しかし、それとともに「経験の過剰になる自己意識」という記事も書こうと思っています。できれば、また日本に留学したいのです。

■ ジャケリネ・メンドンサ・フクシ さん

1. この一年間は本当に素晴らしかったです。日本語力がアップして、日本人の友達もできてうれしいです。初めて長い間家族から離れて、自分でお金を節約したり、買い物したりして、人生の勉強になりました。気持ちのコントロール



もできるようになりました。つらいこともあったが、無事に日本語・本文化コースを終わって本当に良かったです。日本でできた友達とまだ連絡を取っているの、かなり日本語を練習しています。

2. 帰国してからだいぶ忙しくなりました。何故かという、うちの大学(ブラジリア大学)は8月から授業をやっているの、宿題がたくさんあります。来年卒業したいので、今まじめに勉強しています。卒業してから、筑波大学へ大学院に行きたいと思っています。

■ シン ヒョウジョン さん

1. 日研生として過ごした一年は私にとって「発展」になりました。この一年間を通じて、日本語能力や日本の文化の理解のみならず、その他の分野で精神的成熟を成し遂げたと思います。まず、質の高い授業を受けられたことはとても勉強になりました。留学生センターでの日本語の授業はとても体系的で先生達の熱心も高かったので感動しました。毎週課題があったり、毎週テストや発表があつていつも気を引き締めなくてはいけなかったのとても大変でした。しかしそれだけ授業がとても充実していたので、私にとってとてもためになりました。もし韓国でもこのような授業をずっと受けられるならたぶん皆日本語専門家になりますね。それに、日日で開講する授業は、日本語に限らず、日本文化にかかわる様々な分野での先生達とあえて、とても楽しく、多様な分野への視野を広げることができました。キムインファ先生の授業で音声学(?)みたいな分野に接するのは初めてだったので、興味深かったです。また、「日本の習慣」、「日本語による言語生活」、「日本の地理」、「日本の政治と社会」などなど。韓国では決して接することができない、独特で個性的授業がたくさんありました。それにしても一番楽しかった授業は一泊して行われる実習の授業でした。暦博で歴史を知ってから、房総の村で実際に歴史を体験して見ることは最高に面白かったです。着物や浴衣は着て見たことがありましたが、打掛やよろいを着て見るのはめったにない経験でした。一番記憶に残ることは、特別な出来事よりも、自然に恵まれた美しい筑波での些細な日常生活でした。もちろん学園祭や旅行や祭りなどは特別な記憶として残っていますが、友達と飲み会をしたり、図書館で勉強をしたり宿舎でおしゃべりしたりした平凡な日常の出来事が、筑波のなごやかな風景や匂いと一緒になってとても特別な思い出になっています。あの広いキャンパスを自転車に乗って走ったこと、キャンパスの周りに並ぶメタスクエアの木に沿って散歩をしたこと、筑波大学循環のバスに乗ってセンターに買い物に行ったこと、筑波の湿っぽい空気や、宿舎の周りにいるいろんな虫の鳴き声、毎日変わる一学の前の銅像の姿等。今考えればとても大事で恋しい筑波での日常でした。また、日本では日常生活で伝統文化が活かされているようで、祝日日などを通じて行われる年中行事や祭りがたくさんありました。このような年中行事や祭りを通じて日本的風習や文化に触れ合うことがとても楽しかったです。四季の変化に合わせた行事としては、花火大会、花見、月見、紅葉狩り。筑波大の行事としては、新歓際、雙峰祭、スポーツデーなど。また、筑波祭りまで。お正月やお盆休みは、家族のない留学生達にとっては寂しい日にはなりますが、その他留学生を支援してくれるたくさんの行事があったので積極的に参加していただきました。平砂キャンパスにある桜の並木から雪のように散る花びらの下で友達と飲み会をしたことは一生忘れられないでしょう。



2. 韓国の大学に再び復学し、3年生として 続けて授業を受けています。来年4年生を終わらせてから卒業して就職する予定です。実は大学院で勉強を続ける計画もあったのですが、今度の日研生の終了論文を書きながら、自分の限界をしみじみ感じたので、勉強は諦めました。ただ、就職するなら、やはり日本語を生かすことができる職場に就かなくてはなりません。韓国の就職状況もますます厳しくなっていますが、韓国は日本との交流が多い国なので日本語ができることはやはり優位に立てるということになるでしょう。それから、就職して出張やなんらかの形でまた日本に行けたらいいなと思います。

筑波大学で付き合い面倒を見てくれた日日の友達、チューター、論文チューター、先生方々、そして世界各国にいるH23日研生の同期の友達の皆のことが思い出します。皆さんは元気で過ごしているのでしょうか。その後、皆さんと一緒にした日常や思い出はそのままの形で留まっていますが、皆さんの今の日常は絶えず変わっていると思います。今は記憶を共有できる出来事を作ることはできませんが、皆さんの今の話が聞きたくなります。筑波は相変わらずそのままの姿なのでしょうか。

「日研生 E-だより」も 6 号になりました。皆さんからのおたよりをお待ちしております。



2010 年度 日本語・日本文化実験実習

日本語・日本文化学類

Email: kimura.mayumi.gf@un.tsukuba.ac.jp

aoyagi.makiko.ft@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。